※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

（５月29日　定例総会）

挨　　拶

会　長
竹　中　登　一

皆さん，こんにちは。竹中でございます。今年度から，野間口前会長の後任として会長職を引き継がせていただいております。アステラス製薬に勤務しております。

野間口前会長は，経営者としても大変素晴らしい業績を上げられた方でございますし，また，知財におかれましては，政府の色々な役員，あるいは経団連におかれましても知財委員長を務められるなど，知財に関して非常に高い見識のある方でございました。野間口会長から，「次をやってください」というお願いをいただきましたときは大変迷いましたが，それと同時に，大変光栄な仕事をさせていただけるということで，ぜひとも私も何か一つ位お役に立てることをしなければいけないと思いましてお受けさせていただきました。今後とも，皆さんと力を合わせて，知財の発展に尽くしたいと思っております。

本日は特許庁から黒岩進総務部長様にご来賓として出席していただいております。誠にありがとうございます。そして，こんなに大勢の会員の皆様に一堂に会していただき，本当に良い会ができているなということで心から感謝を申し上げます。

挨拶をということですが，先日，発明の日の特集ということで，ジャパンタイムズの取材を受けました。そこでの話はもう既にジャパンタイムズで英文の記事になっておりますが，それを少しお話しすることで挨拶に代えさせていただきたいと思います。

知財は，皆さんが一番よくご存じですが，活用されなければ何の価値もないわけです。研究がスタートしてから知財が活用できるまでに大変長い時間が必要です。特に私が所属しております製薬業界におきましては，研究をスタートしてから知財が活用できるまでに15年位かかってしまうわけです。このように知財の活動というのは非常に息の長い活動でございます。

ところが，一時的と思いたいのですが，今回のような世界同時不況というのが起こってまいりますと，研究開発や知財に対しての会社における投資というのは「おい，ちょっと我慢してくれ。今年だけだ」ということで，少々抑制がかかってしまうわけですが，このような状況にあっても，今，研究開発あるいは知財に投資できる会社が５年先，10年先に必ず発展する，またそうしないと発展できないと私は考えております。

特に，こうした将来を見すえた経営をするためには，グローバルに知財を管理できる，そして，経営をサポートしてくれる人材が必要でございます。私の場合は，先ほど表彰を受けられた方々やこの場の多くの皆さんと同じように研究開発を担当しておりまして，知財で大もうけした経験もありますが，逆に大損害を受けたという，両方の経験をしております。そのような経験をした経営者というの

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

は意外と少ないのではないかと思いますので，折に触れて私が得たうまみと痛みを他の経営者の方々にも訴えて，知財を強化して，日本のものづくりに貢献しようというようなことをお話ししたいと思います。

こういう中で，先ほど表彰を受けられた方々に御礼を申し上げたいのは，特に研修コースで知財の人材を育てていただいていること，これは色々なところでこれからお話させていただいて宣伝していきたいと思っております。

もう一つ，まだほんのわずかですが皆様と理事会あるいは色々なところでお話をしていると，当協会の様々な専門委員会の中で侃侃諤々，それも和気あいあいと議論をされているようですが，これはまさにオン・ザ・ジョブ・トレーニングでございまして，大変良い研修ではないかと思いますのでますます進めていただけたらなと思っております。

一方，最近，産官学連携をどこの会社でも非常に盛んにやっていらっしゃるのですが，私の経験ですと，大学との間で知財に関して理解の違いがあり，連携を進めていくときに知財関係で時間をかけてしまったということがございます。今後，皆様から大学あるいは官の方に積極的に出て行っていただいて，ちょっとおこがましい言い方になりますが，向こうの研修をする，つまり産業化に向けての課題を共有してもらう，そうしていただいて，産学連携の一番のボトルネックである知財のことを十分ご理解してもらえるようにしていただけたらいいなと，こんなふうに思っております。

今度，野間口さんが産総研のトップになられましたので，一番初めに出前で研修させてもらうのは産総研じゃないかと。産総研のいわゆる知財を私たちがフルに活用させていただけたら，野間口さんから私に来た本当に素晴らしい，1つのラインができるんじゃないかと，こんな夢を見ておりまして，皆様からもご協力いただけたらと思っております。

もう一つ，新聞の記事に書かせていただきましたのは，人材活用の中で，この知財の仕事というのは女性に非常に適していますよと。例えば私たちの会社においても知財に関わっている女性は大変生き生きと活動しておりまして，特に少子化の時代，専門スキルを持っておりますので，出産・育児の期間またはご主人が転勤になられても在宅勤務のような形等々で引き続き会社の仕事をしていただける，こういうことが可能でありますという話をいたしました。

たまたま私の友人で，日本人ですがアメリカ生活が長かったので日経や朝日が読めなくてジャパンタイムズを読んでいる人がおります。彼女が朝，新聞を見ましたら，私の写真がバンと出てこの記事が出ていたと，喜んで私に電話をしてきました。そのとき，私はゴルフの第1番ホールでちょうど打とうとしているところで「竹中さん，いい記事だね。写真もいいわよ」と言われ，打ったらOBだった（笑）。こんな落ちもちょっとございますが，知財の分野で女性の活躍というのも，特にダイバーシティマネジメントが叫ばれているとき大変大事だと思っております。

今，東大での講義を持っていまして，先日も薬学部の3年生に，当社の知財の女性に講義をしてもらいました。薬学部は女性が非常に多いものですから，非常に興味を持っていただきまして「あら，そういう仕事もあるの」ということで，その後もその女性知財部員にメールで色々な相談が来ているというふうにも聞いております。私はこの女性の活用を一番進めていこうと，こんなふうに思っています。

国際活動につきましては，聞いているところによりますと，特許出願書類の様式の統一は実現したということですが，今後ワン・サーチの実現についてさらに突っ込んでやっていらっしゃると聞いて

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

おりますが，これはぜひ進めていただきたい。また，アジア諸国の知財の制度についても，協力，支援，それから，こう直してくれという要望をされていくというふうに伺っております。これもぜひ進めていただきたいと思います。

最後に，経営の立場で若干生意気なことを言いますと，やはりものづくりを中心とする企業におきましては，研究開発，知財は会社の推進役の両輪であります。経営がそのときになせる業といえば，ハンドル，ステアリング部分であろうと思います。研究開発力と知財力で会社をぐんぐんと引っ張っていただきますとイノベーションが起こり，そのイノベーションをいかに使うかが経営でございます。

今後ますます重要になっていきます知財に関しまして，皆様の力をどんどんと発揮していただきまして，この協会が発展することを願っております。どうか今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。